

経済学がもっと面白くなる〈情報&メッセージ!〉

北海学園大学 経済学部報

【エコン】

2019.夏・秋号

econ. No. 40

特集 2021年卒業研究始動!!
この頂を目指そう!



interview

OG訪問

働きウーマン²³

本間美雲さん (7ページ)

news 1 基礎ゼミナールで合同ゼミ実施

逸見宜義先生 (4ページ)

連載 column From a Distance¹²

田中仁史先生 (8ページ)

連載企画 研究室の窓から ● 菊田悠先生

(5ページ)

news 3 就職情報

(8ページ)

news 2 ゼミ対抗ソフトボール大会

神山義治先生 (6ページ)

news 2 市民公開講座

『G20 サミットから見える世界経済』

平野研先生 (6ページ)

表紙写真

3月27日に行われた新4年次ガイダンス (写真は二部)
この日から最終年次のスタートを切った



特集 2021年卒業研究始動!! こ

今年度から仮始動! 2019、2020年度入学4年生もこの流れ!

2018年度以降入学生卒の卒業要件がゼミナール4単位から8単位へと変更になりました(1部学生)。また4年次からは卒業研究も始まります。これは経済学部のカリキュラムポリシーには、ゼミナールや卒業研究が欠かせないという考えの表れです。卒研を見据えれば、基礎ゼミやゼミⅠ・Ⅱの取り組み方も変わるはず。まずは4年間の流れを確認していきましょう!!

経済学部のカリキュラムポリシー

- 幅広い教養的知識と経済学の基礎知識と方法を習得
- 大学生としての学びの基本的なスキルを習得
- 少人数教育による指導を通じて、主体的・創造的な研究能力や、他者との協力に基づく実践的能力などを養う

カリキュラムポリシーとは、教育目標を達成するために必要な授業科目の内容および教育方法について基本的な考え方のことです。



Q1 講義に出て単位を取れば、大丈夫?

NO!?



1年前期 くん

A1 初年次の基礎ゼミナール、2・3年次のゼミナール、4年次の卒業研究がこれらの能力を身に付けるためにはとても大切です。

というわけで… 卒業研究に取り組もう!!



1年次

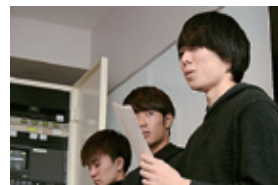
1年前期 くん



A2 関心あるテーマはいろんな講義を聞くことでどんどん変わっていくでしょう。ただ資料検索、レポート作成、議論、質問力、プレゼンテーションといった能力(アカデミックスキル)は基礎ゼミナールでしっかり鍛えておきましょう。

Q2 さすがにまだ卒研のことは考えなくても?

NO!?



Q3 ゼミってどうやって選んだらいいんだろう?

1年後期 くん



A3 11月からゼミを選ぶための説明会やゼミ訪問が始まります。ゼミのテーマで選ぶのもいいですが、調査研究の手法(輪読? 実験? フィールドワーク? グループワーク?)で選ぶのもおすすめです!!

A3 ゼミによって卒業研究のスタイルも異なります。学術論文の他に、地域研修などの調査結果をまとめた、「現地調査報告」なども卒業研究として認められます。自分に合ったスタイルのゼミを選びましょう。

の頂を目指そう!



2、3年次

Q4 2・3年次のゼミで十分じゃないかな～?



2年くん

NO!?

Q5 4年生の4月に先生の相談に行けば十分かな?



3年くん

A4 ゼミナールⅠ・Ⅱのスタイルは輪読、ディスカッション、フィールドワーク、地域研修と様々です。培った能力を卒研で活かしてみましょう。卒研抜きゼミは、「スキーの滑り方を理解できたから、実際山でスキーはしなくていいや」に近いです。



A5 4年次の流れは卒業研究に無理が生じない最低ライン。3年次の定期試験が終わったら、就活の相談と一緒に卒業研究についても相談してみましょう。

早期にスタートすることで4年7月君を6月君にできれば、公務員試験の小論文対策にもなるはず!!

4年次

4月：履修登録（進捗度 10%）

少子化ってどうして改善しないんだろう?



4年4月くん

カテゴリー、キーワード等は4月の履修時点にはおぼろげながらも決定しておく必要があります。そもそも就活が忙しくなってきましたね。

7月：カテゴリー、タイトル案、キーワード等の提出（進捗度 40～50%）

一般的説明としては…保育園の不足、所得の低下、長時間労働、女性の高学歴化、将来の不安…etc.



4年7月くん

女性の高学歴化と長時間労働を掘り下げてみよう!

7月のカテゴリー、タイトル案、キーワード等の提出自体は、手を抜こうと思えば、ほとんど何の準備も必要ないかもしれませんが、この時点であなたが選んだ卒業研究のテーマについて、「どのような切り口から議論されているのか」、「複数ある切り口のうち、どの切り口から議論を深めていくのか」といった段階（進捗度40～50%）までは進めておく必要があるでしょう。

次ページ4年次の頂上へ!!

11月：中間報告会にて、課題設定理由と
想定される結論を報告（進捗度 75%）



4年11月くん

女性の高学歴化と長時間労働
に着目した結果、長時間労働
の問題をクリアできればなん
とかなりそうです!!



4年1月くん

卒業研究、
および要旨を提出
（進捗度 100%!!）



最優秀論文、優秀論文の表
彰を予定!!また、卒業時に
は、提出者全員の要旨を掲
載した「要旨集」を配布す
る予定です。自分の要旨が
載っていないとちょっと寂
しいかも…



さあ頂を目指して！ 卒業研究に取り組もう!!

[令和元年5月31日・6月10日] 1部・2部基礎ゼミ

基礎ゼミナールで合同ゼミ実施

経済学部教育開発支援委員会では、基礎ゼミナール改革の一環として合同ゼミを実施しています。少人数教育がウリの基礎ゼミナールをなぜに合同で大人数に？とお思いかもかもしれませんが、講義形式と少人数での演習形式を組み合わせることにより、よりスムーズなアカデミックスキル獲得が可能となります。例えば図書や新聞記事のデータベース検索の合同ゼミでは、一人の先生が手法を説明し、他の先生はつまづいている学生のサポートに入ることで、情報検索の方法を確実に理解します。このスキルは基礎ゼミごとの調査報告等に後日活かされることになります。

今年度も昨年度に引き続き合同ゼミが実施されました。5月31日の金キソ（金曜の基礎ゼミ）では、前半は「経済学と私」というタイトルで、宮本章史先生（社会政策）にお話しいただきました。学部時代に体験した交通量調査や、卒業論文で取り組まれた京都の鶏卵産業の調査の思い出など、先生自らの体験を交えてお話しいただきました。また講義の後半では、事前に実施したアンケートをもとに学生が現時点で悩んでいること、不安に思っていることについて、7名の先生からアドバイスをいただきました。様々な先生の考え方を比較できる点も合同ゼミの魅力ではないでしょうか。6月10日の月キソでは、板垣暁先生（日本経済論）を講師に、新聞を使った合同ゼミが実施されました。その内容は、(1) 新聞に関する基本的な知識・情報を学生にパワーポイントで提供し、(2) 電力システムに関する経団連発表の資料をうけて新聞各紙（日経、朝日、読売）がまとめた記事と社説を示し、(3) 学生は記事を要約することで各紙の違いに気づき、(4) その上で、実際に新聞をめくらせながら、紙面の解説をする——というものでした。複数の新聞を見比べることで、各紙の違いに触れることが出来たのは新鮮な体験だったのではないのでしょうか。[逸見]

econ.News 1



写真は5月31日の合同基礎ゼミの様子



聖都プハラの古い門の前で

研究室の窓から

体制転換で変わりゆく ウズベキスタン社会を追う

菊田 悠 経済学部准教授
きくた はるか

【専門は文化人類学】東京都出身。博士（学術）東京大学。北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター助教を経て2019年4月より現職。
●近著に“Mobile phones and self-determination among Muslim youth in Uzbekistan.” Central Asian Survey 2019 38(2):181-196。『ウズベキスタン陶芸紀行—よみがえるシルクロードの薫元』共同文化社、2019年



著作「ウズベキスタンの聖者崇敬—陶器の町とポスト・ソヴィエト時代のイスラーム」

ソ連崩壊後のウズベキスタンへ

1991年12月、私が中学3年生だった時にソビエト連邦という巨大な国が突如解体した。社会科の授業では、ピンク色が広がっていたユーラシア大陸の北半分が、それでもなお巨大なロシアと、それ以外の小さな領土ごとにカラフルに色わけされた差し替え用の特別地図が配られた。この時初めてユーラシア大陸の中央部にカザフスタン、タジキスタン、トルクメニスタン、クルグズスタン、そしてウズベキスタンという「スタン」の付く国々があることがはっきり分かり、冷戦が完全に終わって平和で自由な世界が訪れるのではないかという期待とともに新しい国々への興味で心が高鳴ったのを覚えている。

それから約10年後、私は文化人類学を学び、ウズベキスタンで長期フィールドワークを行なうことにした。それは定住民と遊牧民の文化が混ざり合う同国のなかでも、定住民が長く暮らしてきたフェルガナ盆地で一般家庭にホームステイをしつつ、人々のイスラーム信仰実践やマハッラと呼ばれる街区共同体の相互扶助の様子を調査するものだった。無神論が推し進められていたはずのソビエト連邦時代でも、この地域では1980年代後半からイスラーム復興が顕在化しており、その草の根の様子を知ること、現代における宗教の機能や力を考えるうえで役立つはずだという目論見と、鉄のカーテンの向こう側で今まで見えなかった人々の生活実態を見たいという気持ちがあった。

産業、イスラーム、地域社会

フェルガナ盆地でのフィールドワークは2002年から2004年にかけて通算1年半に及び、その後もほぼ毎年数週間ずつ現地を訪れている。最初の調査の焦点は、地元産業（陶業）に従事するムスリムが「仕事の守護聖者」としてイスラームの聖者に抱く崇敬の念や儀礼への関心に絞られ、それがソ連時代の産業の変遷のなかでどのように維持あるいは変化してきたかについて分析することとなった。他のイスラーム圏では職業別の守護聖者崇敬は近代化によって軒並み衰退しており、ソ連という一種特殊な環境で維持されてきたウズベキスタンの守護聖者崇敬は、社会主義的近代化と宗教実践の親和性という興味深い事例を提供している。この調査を通じて、シルクロードの長い歴史に育まれてきた職人文化と手工業の素晴らしさを知ることができたのも大きな喜びだった。

また、隣近所や親戚との強いつながりによって成り立っているマハッラ（街区共同体）でホームステイをしたことは、社会的紐帯が薄れつつある日本の都市で育った私には得難い体験だった。マハッラの家々には門はあっても鍵がかかっていない。近所の人々はお互いの家を頻繁に行き来してゴシップや生活に直接役立つ情報を交換したり、モノとお金の貸し借りをしたり、子守やお年寄りの世話をしあったり、マハッラ全体がひとつの家族のように助け合って暮らしている。マハッラは人々に伝統的な価値観を植え付け個人の自由を束縛するもの

だという批判もあるが、国家の社会保障が弱体化したソ連崩壊後も人々の生活を支え、安全と安心感の源になってきたのは間違いない。マハッラの暮らしは、現代日本の孤独問題を考える上でも重要な参照地点となるだろう

労働移民とテクノロジーによる 急速な社会変化

調査開始から20年近くがたち、現在のフェルガナ盆地では、ロシアや欧米、中東、韓国などで働く人々が故郷に送る「出稼ぎマネー」がもたらす社会変化に驚かされることが多い。店や家屋がきれいに建て直され、道や公園の整備が進み、人々の服装や食生活は目に見えて豊かになった。それだけではなく、携帯電話（特にスマートフォン）が広く普及して、情報革命をもたらししている。若い男女がマハッラのゴシップ好きな人々の監視が届かないSNS上で愛を語り合い、親世代の課ささまざまな規範を一蹴することも可能になってきた。一方で、「出稼ぎマネー」で豪華な結婚式や割礼式などを行うことが人生の喜びであるという価値観はまだ根強い。マハッラへの帰属感やイスラーム信仰もゆるぎなく見える。資本主義化が進む中で、今後のウズベキスタンの暮らしはどう変わっていくのか、興味は尽きない。



7月に刊行されたばかりの菊田先生の新著『ウズベキスタン陶芸紀行—よみがえるシルクロードの薫元』発行：共同文化社



写真左：結婚後、マハッラの住民に花嫁をお披露目する会で祈る女性たち 写真中：サマルカンドの陶工親方と息子さん（共に2019年撮影） 写真右：フェルガナ盆地のリシタン陶器

1部ゼミ対抗 ソフトボール大会



▲決勝戦の前に西村ゼミⅠ・Ⅱ、浅妻ゼミⅠ・Ⅱと3位の川村基礎ゼミ、運営にあたる経済学部ゼミナール協議会の皆さん

6月24日から27日
にかけ「ゼミナール対抗ソフト
ボール大会」(1部)が開かれました。経済
学部ゼミナール協議会が、ゼミ学修のための
活力づくりと相互交流のために毎年主催する大会で
す。初夏のさわやかな天候がつづき、月寒公園高台野球
場では、熱いドラマが繰りひろげられました。参加28チ
ームの頂点を決する戦いに登りつめたのは、「浅妻Ⅰ・Ⅱ」と「西
村Ⅰ・Ⅱ」。3位は川村基礎ゼミ。決勝戦では、フライを投手が
取りそこねてグローブから落したところを、かけよった内野手
が地面落下直前に見事にキャッチするという奇跡的なプレーを
見せるなど、両チームともに卓抜した守備力と最高の団結力
を発揮して、笑いあり涙ありの好試合を展開しました。勝
利の歓喜に沸いたのは、2回裏に2点をあげた「西村Ⅰ・
Ⅱ」。ゼミメンバーとして学ぶ学生たちは親睦を深め、
今後の充実した学生生活のために大いに英気を
養ったと思います。来年はどのゼミの手
に栄冠(豪華賞品?)が渡るのか、
楽しみです。[神山]

[令和元年7月20日] 市民公開講座・道民カレッジ連携講座

「G20 サミットから見える世界経済」を開催

2019年7月20日に市民公開講座『G20サミットから見える世界経済～G7<G20?～』が開催されました。6月27・28日に開催された大阪G20サミットの開催を受け、経済学部の国際経済を専門とする3人の教授がそれぞれの視点からG20サミットを分析、検討してきました。まず、越後報告(多国籍企業論)では、国際会議とは何か?から始まり、G20の歴史を概観し、今回のサミットについても明快な解説がなされました。続いて宮島報告(国際経済論)では、アジア諸国の重要度が増している世界経済の情勢を踏まえ、北海道の観光産業の変化についてデータを交えて分析し、本年10月に倶知安町で開催予定のG20観光大臣会合を見据えた議論となりました。三人目の大屋報告(社会経済学)では、G8やG20への市民運動、具体的には提言型のC(市民)20や反新自由主義運動についてわかりやすく整理されました。前々回ドイツ、前回アルゼンチンでのG20サミットへ対する市民運動も紹介され、日本での市民運動との対比は印象的でした。最後にパネルディスカッションでは、フロアからの質問に対して三講師が答えていきまし



フロアからの質疑を交えてのパネルディスカッション

た。それぞれの立場の違いが浮き彫りになるシーンもありましたが、G20サミットの意義に対して「経済危機に対応する国際的連携」という共通点が導きだせたのは興味深いものでした。いずれの話も概念整理から具体的事例まで、貴重かつ多岐に渡る内容で大変充実したものでした。なお、本講座はG20観光大臣会合実行委員会および北海道庁の後援を得て開催されました。[平野]



本学部大屋定晴教授による講演、熱心に聞き入る受講者の皆さん



講師・パネリスト(上左:大屋定晴教授、上右:越後修教授、下左:宮島良明教授)と司会の平野研教授(下右)



経済学の学びとサークル経験から 自治体職員の道を選んで

本間 美雲さん

ほんま みく

サークル活動で得た現実的な経験と、経済学部で学んだ日常生活を重視する視点が公務員の道を選ぶきっかけになったという本間さん。日々、住民にも助けられながら地域社会と向き合っている

◀ 北斗市の公式キャラクター「ずーしーほっきー」と

経済学の学びとアイセックの活動

学生時代に所属していたサークル、アイセックでの活動経験が現在の北斗市職員への道につながったという本間さん。公務員志望も多い北海学園大学卒業生のひとりだが、地域貢献がしたかったという想いはサークル活動と経済学部で学んだことにあった。

※「アイセック」とは、126の国と地域で活動する世界最大の学生団体 AIESEC の日本支部として、海外インターンシップ事業を運営する団体アイセック・ジャパンで、1962年に設立され、現在では国内25の大学委員会が活動している。日本では特定非営利活動法人(NPO法人)の資格を取得し、国内の学生や法人に対して海外インターンシッププログラムへの参加を提案する活動を行なっている。(アイセック北海道委員会ホームページより)

本間さんはアイセック北海道委員会(北海学園大学文化サークル協議会内に所属)で4年間活動した。もともとアイセックの活動の原点にある国際貢献的な事には強い興味はなかったという。

「先輩が本当にすごいなっていう印象が強く、私と違って人はまとめられるし、判断力は早いし、人にすごいわかりやすく伝えられるし、意見がいっぱい来ても、その場で判断できるというのがすごい。それで地域貢献している先輩たちみたいになりたいっていうのが一番だったんです」

そんな中で、学生団体でありながら、地域社会に貢献するという理念を掲げたサークル活動を続けていて、社会に出てからも地域社会に貢献できないかという気持ちに傾いていった。メイン活動は北海道から海外インターンに行きたい学生を募集し送り出すことだったが、海外から学生を受け入れ、支援する事業にも関わった。

「小樽にあるガラス工房や酒造会社に来る中国人観光客に対して、中国人インターン生が中国語で対応。企業は助かるし、

本人もインターン経験ができる、地域貢献ができるという事業にも関わりました。アフリカやアジアの発展途上国に行くインターンシップ希望者も多く、そのような人たちに関わったことも大きかったです。また、経済学は自分たちの生活に深く関わる学問なので、面白い講義が多く、社会人になった今でも自分が仕事をするにあたっての心構えの基盤として残っています。経済学科でしたが、地域経済の授業にも興味があり、公務員を志望してからはもしかしたらこの勉強内容が将来の仕事に役立つかもと思って講義を聴いていました」

経験から地方公務員を目指す

そのような経験を積み重ねながら、地域に関わる職業として地方公務員を目指すようになった。そして、出身地の函館市桔梗町に隣接し、数年後新幹線が開通されると話題の北斗市で働きたいと志望した。

「元々は民間で働くことをほんやりと考えていましたが、所属していたアイセックで北海道の地域社会に貢献するという理念のもと活動しているうちに、社会に出てからも地域に貢献できないか、出来れば自分の生まれ育った道南でと考えるようになりました」

公務員志望の学生は、入学当初からそれを目指した準備をすることが多い中にある。本間さんは就職活動としてではなく、サークル活動として既に社会貢献を行っていたことになる。給与など雇用的な安定を求め公務員を目指すことも多い中、「何のために」「何故」というような根本的な意識を育みながら最終的に公務員を目指した。本来の「就職」という意味に最も理想的な実現をかなえたことになる。

「公務員試験にのぞむため、勉強については大学の公務員講座に申し込みました。あとは図書館で自習です。人前で話すことが苦手だったので、キャリア支援センターの面接練習を活用したほか、先に内定をもらっていた友人にも面接練習に協力してもらい、率直なアドバイスをもらいながら話す内容を何度も練りました」



▲ 北斗市役所総務課の窓口で対応する本間さん



大学時代の仲間とアイセックの仲間たち。前列左から2人目本間さん

内定が出た後も、実際の仕事は何をするのかわからなかったのが、大学図書館で地方公務員に関する本を読んだり、コールセンターで短期アルバイトをするなど、苦手の電話対応にもなれるように努めた。アイセックで養った現実重視の経験を生かして入庁に備えた。

「現在は総務課という部署にあります。また、選挙時期になると選挙管理委員会も担います。地方公務員は数年経つと部署が変わるのですが、まるで転職したかのように仕事内容が違うこともあります。ほとんど1からのスタートになり、覚えることもたくさんあり、初めてやることばかりでとにかく大変です。そんな時に窓口にくるお客さまが前の部署でお世話になった方でよく声をかけてくれたり、地域の誰かにお願いをする際にも、快く引き受けてくれたりしたときはとても嬉しいです。地域のために働いているけれど、かえって自分が地域の人々に助けられていると感じる場面も多々あります。就職した時点では漠然と北斗市の地域発展に貢献したいと思っていましたが、それは北斗市に住んでいる人のために出来ることを頑張ることだと思っています。」

後に続く後輩たちにメッセージを。「大学では、自分で考えて実行する力はついたかと思います。仕事はやりとげなければならないものなので、勉強のほかにこれを頑張るってやり遂げたという経験が1つでもあれば、社会に出てその経験がとても心強い味方になってくれると思います」



profile
1990年 函館市生まれ
2009年 市立函館高校卒業
2013年 本学部経済学科卒業
北斗市役所民生部社会福祉課、教育委員会社会教育課、総務部総務課、選挙管理委員会

From a Distance 12

「イノベーションと経済成長」●田中 仁史 [経済学部准教授]

2018年のノーベル経済学賞の受賞者の一人に、ニューヨーク大学のポール・ローマー教授が選ばれた。ローマー氏は、筆者の専門分野でもある内生的経済成長理論における先駆者の一人である。授賞理由は、長期の経済成長に果たすイノベーションの役割をマクロ経済学の枠組みで分析したこととされている。イノベーションは技術革新と訳されることが多いが、単にテクノロジーの革新といったことだけではなく、優れた新商品の開発や生産方法の改良なども含まれる意味が広い言葉だ。そういったイノベーションが一国の経済成長の原動力になるという考え方は、20世紀前半に経済学者シュンペーターも論じており、古くから存在していた。ローマー氏の研究が画期的だったのは、新しい製品やアイデアを生み出そうとする企業の研究開発が、国全体の経済成長にどのように結びつくのかを、経済モデルで分析する道を切り開いた点にあ

る。これによって、持続的な経済成長につながる技術進歩をもたらす要因や政策の効果、前提の条件などを客観的に示して論じられるようになり、経済成長理論が大きく発展した。

近年の日本は、低い経済成長が続いているが、国際的な調査によると、企業のイノベーションの実現割合がヨーロッパの主要国などと比べて低めとされている。実現の障害としては、資金面の問題よりも人材やアイデアの不足を挙げる企業が多いらしい。実際、データで見ると研究開発の支出は日本も少ないわけではないのだが、一方で、今までにない革新的なものを生み出そうとする志向が弱いと指摘されている。これまでの日本はリスクを避けることが重視され、大胆な発想や挑戦をしにくくなっているのかもしれない。そうだとすると、経済成長を高めるためには、失敗を恐れず革新に挑む企業家精神を取り戻す仕組みづくりが重

要になるだろう。ローマー氏は新聞のインタビューで日本への助言を問われ、アイデアが枯渇してしまったとか、もう進歩の余地がないと嘆くのは真実ではないからやめよう、といったことを答えている。改元されて時代が新しくなった今は、リスク回避の安全志向から新たな成長に向けた挑戦へと意識を変える好機ではないだろうか。

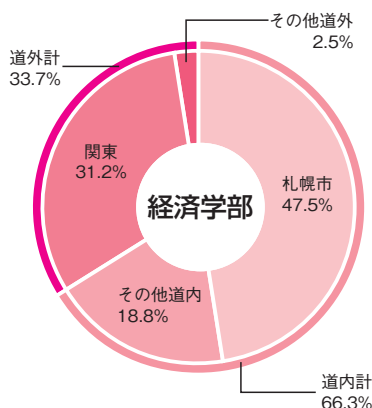


写真：2019年 元沢 敬介（経済学部経済学科2年生）

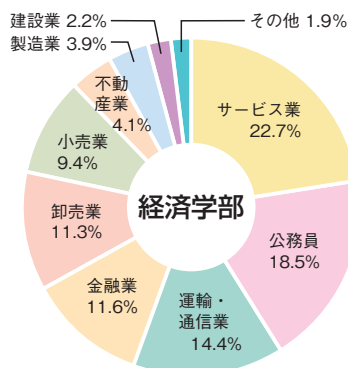
就職情報 平成31年3月31日現在

経済学部2019年卒業生（2018年9月卒業を含む）の就職状況は、下の図表のとおりでした。卒業生の就職率は、1部が96.4%、2部が84.6%と、前年と比較して1部が微増したのに対して、2部は残念ながら大きく減少しました（理由の検証は今後の課題です）。業種別では、2019年の卒業生も公務員試験の合格状況は堅調であり、全体でみると公務員就職者の割合は18.5%となっています。民間企業では、サービス業が2割を超え（22.7%）、その後に、運輸・通信業、金融業、卸売業、小売業と続いています。業種別就職状況」にみられるこれらの傾向は大きくは変わりません。本社所在地別にみると、道外企業に就職した卒業生は、前年よりもさらに増加し、3分の1を占めるに至りました（33.7%）。近年の、本州企業からの求人・採用増が背景にあると考えられます。労働市場におけるこうした変化も念頭におきながら、本学キャリア支援センターでは、合同・単独企業説明会の開催、インターンシップ制度の拡充など、学生の就職活動を支援するさまざまな取り組みを今後も実施していきます。[川村]

↓ 本社所在地別就職状況



↓ 業種別就職状況



学内合同企業説明会

↓ 公務員・教員登録状況

[平成30年度卒業生・経済学部] 平成31(2019)年3月31日現在(右表同)

名称	人数	名称	人数
国家公務員一般職	9	札幌市役所 一般事務	10
国税専門官	4	札幌市消防	1
自衛隊幹部候補生	1	その他市町村	22
自衛隊一般曹候補生	1	国立大学等法人職員	1
北海道職員 一般行政	6	独立行政法人国立病院機構	1
北海道職員 教育行政	2	公立学校教員(臨時含む)	5
北海道職員 公立小中学校事務	2	総計	73
北海道警察	8		

↓ 主な内定先

企業名	人数
市町村(札幌市を除く)	22
札幌市役所(札幌市消防含む)	11
北海道職員	10
北洋銀行	9
国家公務員一般職	9
北海道警察	8
教員(臨時含む)	5
日本郵便	5
株式会社 ラルズ	4
マックスバリュ北海道 株式会社	4